

那覇市長 宛		令和 7 年 9 月 25 日	
		団体名カラフルコーラスOKINAWA	
		代表者 新垣祐歌	
		担当者 宮城裕里菜	
「なは市民活動支援事業」			
中間報告書			
令和 7 年 6 月 13日付け、那覇市指令市ま第1082号で交付決定の通知を受けた当該事業について、現時点での進捗を下記のとおり報告します。また、市ホームページへの掲載を承認し、中間報告会で他団体とも内容を共有します。			
1.事業名	琉球王国時代首里で歌われた祈りの歌と服飾文化を学ぶワークショップ		
2.実施内容	（何をいつ実施したか(事務局会議は除く)、対象者や実施場所など 2025/8/10 14時～16時 @ともかげ振興会館 首里の音楽と歴史～うりじんクエーナを知る～ ご協力：首里クエーナ保存会の皆様 2025/8/16 10時～12時 @おきなわ工芸の杜 沖縄の伝統衣装ドウジン作り体験 講師：砂川恵子先生・知念美枝子先生 2025/8/17 14時～16時 @ともかげ振興会館 琉球の歴史・文化について 講師：鈴木耕太先生 2025/8/24 14時～15時 @ともかげ振興会館 琉球の歴史・うりじんクエーナについて 講師：鈴木耕太先生 カラフルコーラスOKINAWA講師：新垣祐歌 知念利津子 北野希 照屋恵悟 山城麻紀子 根神夢野 安里友希 宮城裕里菜		
3.事業を一言で表現すると	(例：生活困窮世帯に食糧を配布することで、対象者が安定して食事が取れるように支援する。) 障がいの有無を問わず全ての那覇市の子ども達が安心して参加できる環境で「琉球王国時代首里で歌われた祈りの歌を用いた手歌づくり」をし、「琉球王国時代首里で祈りに使われた胴衣づくり」をする実体験（ワークショップ）をすることで、次世代への琉球文化芸術の継承と沖縄らしい共生社会の実現に向けて、那覇市共催の舞台にて那覇の子ども達からのメッセージを大きく発信する。		
4.これまでの活動の振り返り	【良かった点】 ・障がい児を含めた子ども達が琉球王国の文化芸術の歴史を専門家の講話によって学び、古都首里の伝統文化であるクエーナやドウジン作りなどを体験する事で、歴史への興味を高め、継承・発展させていく意識を養った。また、手話通訳士、音楽家、歴史研究者、芸能文化の研究者等の各専門家や地域機関との協働により、様々なアプローチで那覇の子ども達へ届ける事ができた。 ・全ての人が参加できる芸術環境を創出する事ができた。障がいや貧困など多様な背景を持つ子ども達が、共に音楽と工芸品を創作する過程において、互いの持つ表現や感覚の違いを認め合う事で、多様性の理解や共生社会の意識改革と基盤が生まれた。 ・多くの子ども達が集まり、手話で交流できた。 ・運営スタッフが担っていた手話通訳を、派遣手話通訳者に依頼することで、スムーズな運営や普段フォローが行き届かない子ども達をフォローする事ができた。 ・なかなか出会う事ができない伝統文化の専門家と直接対話する事により、伝統芸能を伝えていく価値と共に、専門家が何故このような取組を長年行っているかなど、歴史紡いでいく貴重性と心を子ども達が感じる事ができた。	【改善点・今後につなげる点】 沖縄県内に住む障がい児にワークショップの情報を伝えるため、SNSやチラシなどで広報を図ったが、なかなか対象にリーチしなかった。盲学校、ろう学校や聴覚障害者協会、視覚障がい者協会などにも協力を仰ぎ広報に力を入れたが、障がい児に情報を繋げるにはさらに手段の検討が必要である。また、障がい児に興味があっても移動手段やあらゆるケアができるサポート体制が整っていないと不可能なケースもあり、今後障がい児を取り巻く環境のリサーチが必要と感じた。	
1 ページ			

5.今後の活動予定 (事業期間内又はすでに終了した団体については次の予定)	(何をいつ実施するか、対象者や実施場所、など) 今回ワークショップにて作成したドウジンを着用し、学んだクェーナや、子ども達が作成した手歌を沖縄県内各地のイベントやワークショップにて演奏し、障がいの分断なく沖縄の芸術を共有する活動を行っていく。 今後の活動予定 2025年11月 沖縄県名護市の児童を対象にしたワークショップ開催 2026年1月 久米島の児童を対象にしたワークショップ開催 2026年2月 沖縄国際大学にて開催される「ミチシルベ」出演予定 2026年3月 沖縄県医師会主催うりずんフェスタ出演予定
6.活動写真 (簡単な説明文を記入)	 (うりじんクェーナの歌詞の意味を学ぶ)  (和装・琉装の違いを学ぶ)  (織物を実際に触り、各地に伝わる模様を知る)  (昔の琉球の生活の様子をスライドで見て感じる)
7.今回の達成目標 (当初の事業計画書に記載した目標)	・参加した子ども達が琉球の歴史で初めて知った事、感じたことを表現できる。 ・ワークショップでこれまで会う機会がなかった人と交流・学び合いができたと感じる。 ・コンサートの観客が成果発表に対し「良い」以上の評価をする。
8.現時点の目標達成度 (例：60%達成)	達成度80%